あさかわせんじょうちいせきぐん 浅川扇状地遺跡群現地説明会資料

(一財) 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、県道高田若槻線の建設(長野建設事務所実施)に伴い、 平成23年4月から浅川扇状地遺跡群の発掘調査を行っています。平成25年度までの発掘調査では、弥生時代から平安時代の竪穴住居跡168軒を中心とする集落跡、中世の堀跡などがみつかっています。

2. 今年度調査の概要

所在地 :長野市桐原2丁目

調査面積 : 約 3,030 m² (表面積)

調査期間 : 平成 26 年 4 月 7 日

~11 月 29 日

今年度の調査で発見されたもの:

遺構 竪穴住居跡 13 軒(弥生時代 3、 古墳時代 6、奈良・平安時代 4) 溝跡 20 条(弥生~古墳時代 16 中世以降 4)、土坑 約 150 基 (弥生時代~中近世)

遺物 弥生時代の土器、古墳時代~



上空から調査地(3c区)を望む(南から撮影)

平安時代の土師器・須恵器、緑釉陶器、近世の陶磁器・土製品など

3. 説明会の見どころ

本日の説明会では、桐原地区で発掘されたばかりの平安時代の竪穴住居跡や穴などを現地公開します。また出土品では、弥生時代後期末から古墳時代初頭ころにつくられた口縁が二段になった特殊な形の赤い壺や古墳時代の石製模造品、江戸時代とみられる天保通宝の土製模造貨など、めずらしい逸品を展示します。

現地公開:

平安時代の集落跡(今から約 1200 年前ころ)

今年度は桐原地区の清林寺より南側の調査区(3区・4区)で発掘を行ってきました。 4月から8月までに行なった調査では、弥生時代~古墳時代の竪穴住居跡や溝跡などが発 見され、現在調査中の地区では、平安時代 の住居跡8軒がみつかっています。住居跡 からは平安時代の土師器とともに貴重な緑 釉陶器なども発見されています。

また、この場所では、近世以降に埋めも どされた穴がみつかっており、その中から 土製の天保通宝が出土しました。残念なが ら半分に割れていましたが、本物のお金と 同様に表に「天保」、裏に「當百」の文字が つけられています。



竪穴住居跡から出土した平安時代の土師器(坏)

出土品展示:

二段の口縁を持つ弥生時代の赤い壺(今から約 1750 年前ころ)

長野電鉄線に沿う南側の市道の下から、弥生時代終末から古墳時代前期初頭と考えられ る特殊な赤い土器が出土しました。

ひとつは口縁が二段になる赤い壺で 3 点 あります。これらと共に小壺や高坏、さらに は北陸地方の影響を受けたとみられる壺な どで、いずれも溝跡の中から出土しました。 この溝は方形状にめぐる可能性が高く、方形 周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)と呼ばれる お墓の溝と考えられそうです。溝の規模は一 辺が約 17.5mもある大きさで、ここのムラ を治める首長のお墓と考えることもできそ うです。

古墳時代の幕開けを語る上で、非常に重 要な発見といえます。

二段口縁をもつ特殊な赤い壺

発掘体験:

古墳時代の竪穴住居跡などを掘る(今から約 1600 年前ころ)

今回の説明会でも、調査区の一部を 実際に発掘してもらう計画を考えまし た。古墳時代とみられる埋もれた住居跡 をていねいに掘ってみましょう。

長野県埋蔵文化財センター 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4 TEL(026)293-5926 FAX(026)293-8157 E-mail info@naganomaibun.or.ip

インターネット(最新の情報はこちらから

長野県埋蔵文化財センター

http://naganomaibun.or.jp/

